

## 第 3 回 宗像市アセットマネジメント推進計画審議会 議事録

日 時	令和元年 11 月 21 日 (木) 19 : 00~20:45
場 所	宗像市役所 第 2 委員会室
委 員	池添昌幸会長 (福岡大学)、上小澤ひろみ副会長 (東郷地区コミュニティ運営協議会)、南博委員 (北九州市立大学)、牧敦司委員 (株式会社醇建築まちづくり研究所)、横山麻季子委員 (北九州市立大学)
出席者	宗像市経営企画部財政課 (以下、市) : 長谷川部長、安部課長、福崎再任用主幹、有吉管財係長、小数賀企画主査、有松主任主事 ランドブレイン株式会社 (以下、ランドブレイン) : 岩切、六本木、宮本
内 容	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 前回議事録の確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員 : 前回議事録に関して、ご意見はあるか。</li> <li>全員 : 異議なし。</li> </ul> <p><b>3 審議事項</b></p> <p><b>(1) 推進計画の見直し</b></p> <p><b>①第 4 章 公共施設・公共インフラの維持更新計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員 : 資料 3、4 の内容について、方針の見直しを行ったことについて何かご意見はあるか。</li> <li>委員 : 第 1 期の間実施する事業について、資料 4 から読み取れるのか。</li> <li>事務局 : 2024 年までの事業については、資料 5 に事業の予算を記載しており、その内容から読み取ることができる。</li> <li>委員 : 資料 5 について、「正助ふるさと村の花栽培ハウス」は、計画期間内に何も記載がないがどう解釈するとよいか。</li> <li>事務局 : 「正助ふるさと村の花栽培ハウス」は、譲渡を前提としているため、改修も更新もしないという考え方である。</li> <li>委員 : 資料 5 について、施設毎の評価を記載すると分かりやすい。廃止、譲渡であっても、そのアクションを記載した方が分かりやすい。資料 4 の評価と更新方針の記述について、P5 の「うみんぐ大島」、「東部観光拠点施設」は、「計画期間外に更新で、更新時まで民活化を検討」と書かれているが、評価は『現状維持』となっている。一方で、P25 の「かのこの里直売所」は「計画期間外に更新、更新時まで譲渡を検討」と書いているが、評価が『譲渡』となっている。記載の仕方に差があるので、どちらかに統一した方がよい。また、民活化の基準について、「宗像ユリックス」は『民活化 複合化』と記載があるが、レクリエーション・観光施設については、更新方針に民活化という記載があっても評価は『民活化』となっていない。表現の仕方の違いがあれば教えてほしい。</li> <li>事務局 : レクリエーション・観光施設については、民活化の相手が決まっていないため『現状維持』としている。所管課に方針等を聞き取った上で、市長のコンセンサスを取り資料を作成している。具体的な取組みが決まっていないものは、『現状維持』、具体的な考えがある施設については、具体的な記述となっており、評価にも『民活化』と記載している。</li> <li>委員 : 「うみんぐ大島」は、計画期間内では現状維持として、計画期間以降、更新時まで民活化ができなければ『現状維持』ということになるのか。</li> <li>事務局 : 現在、施設ベースで評価・方針を示している。『民活化』か『現状維持』かの判断をする最終期限を「更新時まで」としている。更新時より前に、民活化の</li> </ul>

方向性が定まれば、時期を前倒しし実施していく。

- ・ 委員：これまでの話を踏まえると「かのこの里直売所」は、『現状維持』のほうが評価としてはいいのではないか。また、ユリックスは評価が『複合化 民活化』となっているが、その想定があるのか。
- ・ 事務局：「うみんぐ大島」や「東部観光拠点」は、民活化をした場合も施設の持ち主は市という考えであるため、『現状維持』としている。「かのこ里直売所」は、施設自体が市の持ち物ではなくなるため、『譲渡』としている。「宗像ユリックス」は、記載に誤りがあるため「民活化」を削除する。
- ・ 委員：更新方針に計画期間外の方針も記載されているが、計画期間内の事業費には関係がない。計画期間外の方針が書かれていることで、「いつ」を期限とした方針なのかが分かりにくくなっている。計画期間外の方針まで記載する必要はあるのか。
- ・ 委員：計画期間内の方針が現状維持であれば、評価は『現状維持』でよいのではないか。計画期間内に具体的なアクションの見込みがたたないものは、『譲渡』であっても事業費を計上しているという理解でよいか。
- ・ 事務局：計画期間内でのアクションかどうかに限らず、「かのこの里直売所」は計画期間外ではあるが、施設の管理はずっと続くものであるため、市が考える施設の在り方を前もって示すべきという考えのもと、方針を記載している。公共施設の保有総量として、期間内に 10%削減、最終目標として 20%削減を目指すという考えがこの背景にある。
- ・ 委員：「宗像ユリックス」について、『民活化 複合化』ではなく、『複合化』に修正するとあるが、評価として『民活化』がなくなるため、資料 2 の P30 の民活化 (PFI) の説明は、必要なくなるのではないか。P30 の内容をみると、更新にあたって PFI を行うという意図があったのではないかと思われる。
- ・ 事務局：施設の評価として『民活化』ではアセットの効果がでにくく、運営の在り方を変えるという意味での『民活化』であるため、評価としての『民活化』を削除して、『複合化』としたい。資料 2 の P30 の評価区分の「民活化」を削除し、「宗像ユリックス」の評価を『複合化』とする。
- ・ 委員：方針部分に「機能移転」という記載がみられるが、「民活化」と「機能移転」の言葉の使い方の解釈はどのようにしたらよいか。
- ・ 事務局：施設の老朽化や更新単価が高騰している施設等は『廃止』としている。「エコ館」の評価は『廃止』となっているが、廃油石鹼づくりなど民間活用を行っているものは継続していく。そのような活用の際は場所を移転し、機能を維持するという意味で機能移転と記載している。弓道場も廃止するが、市民体育館の更新の際に、弓道場の機能移転を行う想定としている。
- ・ 委員：計画期間内に集約化や複合化を行う施設はあるのか。
- ・ 事務局：計画期間でいうと市民体育館について、弓道場や勤労者体育館との集約化を図っていきたいと考えている。その他に、集約化・複合化として、学童施設があるが、子どもの数を見ながら施設同士での複合化や集約化を進めていきたいと考えている。
- ・ 委員：総量圧縮の 10%はどう決めているのか。
- ・ 事務局：金額、面積の両方から検討している。面積は、計画期間の更新を踏まえて積み上げた削減面積に基づき 10%としている。市内の公共施設の面積は、学校施設の面積が半数を占めているが、計画期間内での圧縮は難しいため、計画期間外も含めて、最終的に 20%の削減を目指していきたいと考えている。
- ・ 委員：学校施設について、玄海東小と城山中は、評価が『適正化』となっているが

補足があればお願いしたい。

- ・ 事務局：城山中は、基本設計を行っている段階である。計画期間内の費用の積み上げは、具体的な積算がされていないため、「現状の面積×構造別単価」の費用を計上している。今後、設計・工事の期間5年間で費用の平準化を図っていきたいと考えている。玄海東小学校については、規模の適正化を図るということで検討を進めているが詳細は決まっていない。第2期の見直しの際に教育委員会との協議を踏まえて検討していきたいと考えている。
- ・ 委員：当日資料3のP2について、「立地適正化計画や人口ビジョンと連動」とあるが、人口ビジョンについて記載する必要があるの。また、なぜ立地適正化計画だけここに記載するのか。総合計画及びその他の個別計画という記述でいいのではないのか。立地適正化計画が甘すぎるという趣旨で記載しているのか。
- ・ 事務局：記述内容はご指摘の内容に改める。立地適正化計画を踏まえた再配置についての議論はまだできていない。
- ・ 委員：現計画策定時に、立地適正化計画については、その在り方と公共施設マネジメントが連動するというので、特記したという経緯があったと記憶している。記述内容についてはご検討いただきたい。
- ・ 委員：学校の統廃合、適正化の検討については加味していないのか。
- ・ 事務局：本計画には反映できていないが、それを加味した上で最終的な総量圧縮の20%を導き出している。
- ・ 委員：木造は構造別単価が下がっているが、全体の5%を占めるので、記載した方がいいのではないか。
- ・ 事務局：計画書の中ではきちんと記載をしておき、単価も加味している。当日資料に関してはスペースの関係で、記述を削除している。
- ・ 委員：計画期間も含めて20%の削減と記載しているが、20%の根拠は、計画期間外での複合化等を含めて、20%という数値を入れているのか。
- ・ 事務局：将来的に目指す方向性を市民に伝えることを意識して記載している。計画期間後も継続して施設管理を行っていくためには具体ビジョンを見据える必要があるため、期間外の目標もいれている。計画の見直しのタイミングで、20%削減を打ち出して、管理経費が収まるように目標を定めている。
- ・ 委員：資料3のP1に「政策的判断も含む～」とあるが具体的にはどのようなことか。
- ・ 事務局：消防施設の第5分団は、消防活動の拠点が大雨により浸水し使用できなかった。施設として耐用年数は残っているが、活動に支障があるため移転の上、更新を行う。コミセンに関しても、避難所指定されているが、浸水区域に位置している施設もあるため、所管課でコミュニティ形成や避難所としての役割を判断し、耐用年数が残っていたとしても、政策的に移転等を検討することがあるだろうと考えている。
- ・ 委員：10月から消費増税となっているが、計画期間の25年以内に再び消費増税があった場合、財源が不足する等の予測はしているのか。
- ・ 事務局：5年間の見直しの中で既に消費増税が生じている。これから先25年間で消費増税がある可能性もあるため、5年毎に見直しを行っていきたい。また、人口増減、少子高齢化などの影響により、財源が充足するかは不明であるため5年毎に見直ししていきたい。
- ・ 委員：資料2のP30の評価区分について、先ほどの事務局の返答に逆行するが、民活化は入れた方がいいのではないか。民活化以外は箱の形態の変化を示しているが、民活化は箱の形態には影響しなくても、維持管理費用の圧縮にはつながるので

はないか。今後、検討してほしい。

- ・ 事務局：ご意見を参考にしたい。検討の過程でも民活化の表現は悩んだ。具体的にはパーク PFI を考えている。宗像市の規模で PFI による効果を見出せるかどうかは難しく、アセットマネジメントにおける軽減は見込めない状況であると考え、施設としての民活化の考え方は削除する方向性でいる。
- ・ 委員：民活化が実現すれば、更新以降の維持管理費用は圧縮できる。その在り方を目指しているのであれば評価区分に入れたほうが良いと感じるため、ご検討いただきたい。
- ・ 委員：民活化は、民間施設のストック活用という視点もある、そうなるハード面にも影響する。ハードでの民活化を考えないのであれば、民間施設のストック活用の記載は削除すべきではないか。ストック活用含むハードでの民活化なのか、運営面での民活化なのか、どちらかで考え方を統一して記載した方がよい。
- ・ 委員：アンケート結果をどうみているかであるが、総量圧縮を実施しないほうが良いという意見が多かった場合、市民にどう説明するのか。
- ・ 事務局：アンケートの結果として総量圧縮に反対の意見が多かった場合、宗像市の財政状況を考慮したうえで、総量圧縮の方針を示したということについて、市民の理解を得ることができるように丁寧に説明していきたいと考えている。
- ・ 委員：当日資料 2 で、金額が入って具体的に上がったが、先の意見でも出たが今後の消費増税などの考慮が必要であると思う。また、学校教育施設が占める面積割合が大きいなかで、今後の教育委員会の方針によって状況が変わっていくと考えてよいか。
- ・ 事務局：本計画が公共施設の最上位計画であると考えている。本計画で位置付けた方針に、教育委員会も他所管課も従ってもらう。コスト削減の前倒しができる場合は、計画の見直しの際に反映する。
- ・ 委員：計画の全体像は承認して、このまま進めていくということでよいか。
- ・ 全員：異議なし。
- ・ 委員：国交省がハザードマップで浸水可能性の高い施設について、電気系統のチェックをしている。問い合わせが入る可能性があるため、確認をしておいたほうがよい。

## ②序章～3章について

- ・ 委員：序章～第 3 章までについて、ご意見、ご質問はあるか。
- ・ 全員：特になし。
- ・ 委員：第 2 回審議会での意見が計画に反映されているという理解で進めたいと思う。
- ・ 委員：資料 6 について、質問、意見はあるか。
- ・ 全員：特になし。

## (2) その他

- ・ 第 4 回審議会は、2020 年 1 月 20 日（月）19：00 から開催とする。

## 4 閉会

以上